

常総学院同窓会会報

発行／常総学院高等学校同窓会 編集人／同窓会会報編集委員会 委員長／飯田晃久 印刷／(株)塚田印刷



本校の現状について



高校長 青山和義

会員の皆様には、ご健勝でそれぞれの分野でご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃から本校教育の充実発展のため、格別のご支援ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。特に、今回の野球部の甲子園出場に際しましては、同窓会及び会員の方々から募金活動にご協力をいただき、重ねて御礼申し上げます。

本校は今年で二十一年目を迎えました。これまで文武両面にわたる数々の実績を積み重ねて、全国区の学校として発展して参りましたが、今年も本校の歴史にページが加えられるような大きな成果を残し、一層

の飛躍が見られました。

具体的に申し上げますと、初めは皆様すでにご存知のように、野球部がこの夏の全国大会で優勝し、勇退を表明していました木内監督は、有終の美を飾ることができました。挫折を乗り越えた選手達のひたむきで爽やかなプレーと、これまでの経験をもとに培われたマジックと呼ばれる木内監督の見事な采配は、全国の多くの人々に感動と勇気を与えました。なお、木内監督の後任には、前藤代高校監督の持丸修一氏が就任し、木内監督は副理事長として、今後も学校経営に関わっていかれます。

次は吹奏楽部の活躍です。

今年度は、昨年まで三年連続全国コンクールに出場したため規定により出場権がありませんでした。その代わり、通常ではできないことに積極的に取り組みました。その中から主な二つを紹介します。

一つは、夏休み前半に実施しましたアメリカ合衆国への遠征演奏会です。アメリカで吹奏楽が最も盛んな所は、テキサス州とアーカンソー州です。この両州吹奏楽連盟から昨年の全国コンクールの折、本校吹奏楽部の演奏技術の高さが評価され、両州最大のコンベンションにメインゲストとして招待されました。演奏会はこちらも大好評で、地元の新聞は、「これが高校生の演奏か」と批評し、最後は全員が立ち上がって、拍手がなかなか鳴り止まなかったと伝えていました。

もう一つは、十月二十四日に東京芸術劇場で開催された第九演奏会です。第一部は作曲家の保科洋氏の指揮で、繊細で深みのある美しい曲を格調高く演奏し、第二部は武蔵野音楽大学合唱団の協力を得て、本図教諭の指揮で、ペーパートの第九交響曲「合唱」を壮大な迫力ある演奏で披露し、大き

な反響を呼びました。新聞では「常総サウンドで芸術の秋を満喫」との見出しで絶賛されました。

その他の部活動では、パワーリフティング部が全国大会において団体で準優勝し、部員二名が世界ジュニア大会に出場、水泳部とバドミントン部がインターハイに出場の活躍があり、更に女子駅伝、男子バレー、サッカー、ラグビー、柔道の各部は、県内トップレベルにあつて頂点を目指しています。

学校行事では、修学旅行で交流を行っている韓国、宇信高校から語学研修生の受け入れが、新しい交流の在り方として注目され、新聞でも報道されました。七月二十二日から三十一日までの十日間、生徒三〇名（男子一二名、女子一八名）引率の先生三名が来校し、本校合宿所で宿泊して、午前中は日本語の授業、午後はデパートや研究施設等の見学を行い、校内では生徒と交流を深めました。また、高校野球県大会決勝の応援、日光及び東京都内の文化施設見学も実施しました。来年も継続されますので、日韓親善の促進と両国文化の相互理解に大いに役立っていくと思えます。さらに本校

生が、韓国の高校生の学習意欲と学習態度も学んでほしいと期待しているところです。

進学面では、平成十四年度の大合格者数は国公立大学・大学校に八八名、私立大学へは早稲田大に一八名、東京理科大に四〇名など計一〇八〇名でした。新卒者の進学状況は四年生大学への進学者約七七％、進学準備者約一八％、残り約五％が短大等になっています。

よく部活動での活躍が目立つ時は、進学面でも良好な結果が得られると言われていますが、現三年生も、これまでの校外模試等の成績から判断しますと、大学進学でかなりの成果が予想されます。本校が目標としています国公立大学・大学校合格者一〇〇名、私立難関校（早慶等）合格者五〇名について、少なくとも一方は達成できると感じています。

また、昨年度途切れました東大合格者も、復活することがほぼ確実視されています。

今後は、生徒が安易に妥協しないよう、教職員一体となって生徒を叱咤激励し、文の面でも最良の結果が出るよう努めていきたいと

気を引き締めているところです。現在の社会状況は、長引く景気低迷、少子化と私立学校にとって厳しい現実ですが、勤勉と礼節を重んずる明るく活力のある学校として邁進していく所存です。皆様のなご一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い致します。



祝

第八十五回全国高等学校野球選手権記念大会

常総学院高等学校野球部

優勝

大崎 大二郎

今夏、夏の甲子園大会で優勝出来たのは、木内監督を始め、大峰先生、佐々木先生、入江先生、鈴木先生のコーチ陣の支えがあったからこそ成し遂げられた事だと思えます。また、先輩方の助言でいい結果を残す事が出来ました。

そして、OBの方々が常総関係者の応援、アルプスでの声援が僕達の力の二〇〇%を引き出してくれました。今回の優勝で、甲子園の思い出が一生忘れる事の出来ないものとなりました。監督、コーチの先生方、先輩方、大変お世話になりました。

宮田 竜一郎

私たちにとって全国制覇というのはとてもいい思い出、そしていい経験となりました。私たちは一人一人の力はあまりなかったのですが、監督さんをはじめコーチの先生方やOBのみなさんの支え、

声援があったからこそ九人が一つ

になり野球が一つになりその結果全国制覇につながったと思います。ありがとうございます。

私たちはこの経験を生かし、そして忘れることなくがんばっていきたいと思います。

井上 翔太

この度は私達のために御声援いただき、ありがとうございます。OBの方たちのサポートがあったからこそ優勝できたものだと思います。OB会からいただいたタオルも、甲子園のベンチで使わせていただきました。常友会を全国にアピールするためにもいい機会になると思えました。

これから私も、常総学院野球部の一OBとして現役選手をサポートし、勝利に貢献したいと考えていますのでよろしくお願ひします。

上田 博司

夏の全国高等学校野球選手権大会で初の優勝を成し遂げることができました。優勝にいたるまでたくさんの方々のご声援、ご協力をいただきました。僕達は皆さんのおかげでこんな素晴らしい結果を残すことができたのだと思っております。OBの皆さん、保護者の皆さん、そして応援して下さい。全ての皆さんに感謝申し上げます。

常総学院の歴史、伝統が受け継がれていくようこれからもご声援よろしくお願ひします。



部 紹 介

パワーリフティング部

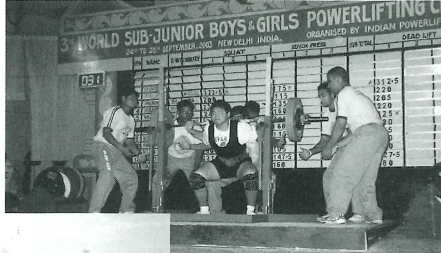
世界大会に出場して

第二十代主将 二年十組 渡辺 裕次

私は九月下旬にインドで行われた、第三回サブジュニアパワーリフティング選手権に出場することができました。日本を出発する日は、心の中が緊張と不安で一杯でしたが、大会が始まると、日本代表の先輩や世界の選手の試合を見ることが出来て、とても勉強になりました。自分の試合の番が来ると緊張しましたが、一緒に大会に来た先輩たちの声援のおかげで気持ちがとても楽になることができました。

大会の結果は団体で男女共に三位、個人では階級別で四位に入賞することが出来ました。今回の経験は、自分に新たな目標と色々な事を学ぶ機会を与えてくれました。たった一週間という短い期間でしたが、私は様々な人たちとの交流の楽しさや今まで見たことのなかった世界の厳しさを知ることにも出来ました。

来年、南アフリカで行われる大会にも参加し、今度こそはメダルを獲得したいと思います。



柔 道 部



三年一組 柴田 望

私達柔道部は創部以来の最大の目標、“全国優勝”を目標とし、顧問の下玉利先生、副顧問の長瀬

先生の御指導のもと、日夜優勝、必ず勝つ事を信じて練習に励んでいます。練習の内容は大きく分けて立ち技、寝技、WT(ウェイトトレーニング)に分かれています。どれ一つ取っても厳しい練習ですが、欠かす事の出来ない大切なものなので辛いとは思いません。一生に一度、今一瞬はこの時しか無いと考え練習しているからです。

柔道は体だけでなく心も鍛える事が出来る素晴らしいスポーツです。高校三年間を賭ける価値が十分にあるスポーツだと思っています。私も、引退するまでの高校生生活を柔道に注ぎ、残ったのはとても大きな事を成し遂げたという自信、満足感や達成感でした。そう思っているのは私だけでは無いはず。創部以来、今まで柔道部を卒業していった先輩方も誰もがそう思っている事と思います。

皆さん、是非、柔道部に入ってみませんか？絶対に後悔だけは無いと思います。大切な高校生活を充実した、価値のある物にしたとは思いませんか？柔道をやっていると、本当に良かった“と、そう思えるはず。柔道部をよろしくお願いします。

応 援 団

第二十期常総学院応援団 団長

田崎 享太郎

私が団長を引き渡してから数ヶ月が経ったが、今でも目を閉じるとあの時の興奮がまるで昨日のことであったかのように思う。どの試合が思い出に残っているかと聞かれても答えに迷ってしまう。何故ならすべての試合が鮮明に心に焼き付いているからである。

自分の応援団生活の最後を団長として迎え、優勝という最高の結果で終わることなど、一体いつ考えられたであろうか。今まで私は、応援団を退くと同時に悔し涙を流すものだと思っていた。それゆえ夏の県大会が始まると同時に、常に引退の恐怖とも闘ってきた。しかし私は、一番最後まで応援することができた。私は応援団として本当に幸せだと思ふ。

この三年間、本当に色々な人に御世話になってきた。先輩諸兄、同期、後輩、柳下先生を始めとする顧問の先生方、そして両親。今ここではっきりと言っておきたい。三年間、本当にありがとう。

吹奏楽部

第九演奏会を終えて

三年 フルート担当 佐藤 愛美

十月二十四日、私達吹奏楽部は、東京芸術劇場で第九演奏会を行いました。第九を吹奏楽というジャンルで演奏する事は、私達にとつて大きな壁であり、挑戦でした。

また、多くの曲をより高い完成度で仕上げる為に必死でした。しかし、第九は今までにやってきた曲とはスケールがかけ離れていて、技術的にも精神的にも追いつめられました。そんな中でも同じ環境で悩みながら共に頑張ってくれる仲間がいて、ぶつかり合いながらも支え合ったからこそ、ここまでやってこられたのだと思います。

また、一部では保科洋先生をお迎えし、指揮をしていただきました。まるで雲の上の存在だった保科先生と共演できた事は、一生涯の思い出です。演奏会をこのように成功させることができたのも、校長先生を始めとする学校の先生方、また両親や地域の方々のご協力があったの事だと思っています。本当にありがとうございました。



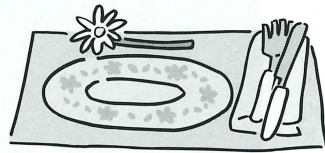
クッキング部

クッキング部一同

私たちクッキング部は土曜日の午後に活動をしています。主な活動は、文化祭への参加です。文化祭で自分たちが作ったものを販売するために、九月半ばから練習をはじめ、何を作るのか、材料をどうするのか、どれくらいの値段にするのか、利益はどのかなど細かいところまで自分たちで考えました。練習が始まってからは平日の放課後なども残って作るようにしています。初めは失敗ばかりで大変でしたが、やはり上手く出来るようになるとうれしいし、上手く出来なくても、今回は何がいけ

なかったのかを考えたり、みんなで話し合ったりすることはとても有意義なことだと思います。部費や材料費の管理も自分たちでやる必要があります。お金を管理することはとても大変だけれど勉強にもなります。

私たちは先生方やいろいろな方の協力を得て今こうやって活動をさせて頂いています。これからはお菓子だけでなく他の料理もがんばって作っていくつもりです。



アニメ部

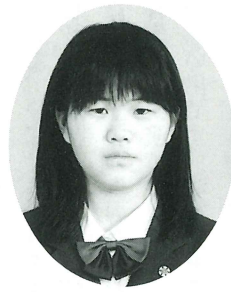
アニメ部一同

現在アニメ部は、顧問の鈴木修明先生の指導の下、部員十人で活動しています。十人の内訳は二年生男子三人・女子二人、一年生男子三人・女子二人となっています。

アニメやゲーム、マンガ、声優、時には製作会社まで、部員は自分の好きな様々なことに関して熱く語り合い、意見を述べています。春の部誌の発行も終え、秋の部誌のタイトルは『ちゃー補元計画☆』と決まりました。今現在も各部員による作品作りが進行中で、部一丸となって部誌の製作に取り組んでいます。今後も作品の上達などを目標に活動していきます。



この半年を ふり返って



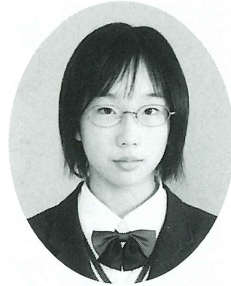
中等部 一年
矢口 実沙

私が常総生となって、半年が過ぎました。その間にはいろいろな行事がありました。その中で強く感じたことは、ベストをつくすこと、みんなで協力すること、他の人を思いやることなどの大切さでした。それらは、日々の生活に欠かせないものです。そして今の私達にも生かされているように思います。

また、学習面について、予習・復習が重要で、日々の積み重ねがなければ、決して実力がつかないということを強く感じました。小学生のころの何倍もの努力が必要でした。校内のテストでも一夜漬けは通用しませんし、模試ならさらに大変なことになってしまいま

す。勉強には決して近道はないのだという気持ちを強く持ち、そしてそれを忘れないようにして、これからも努力し続けて行こうと思います。

京都・奈良 研修旅行に行つて



中等部 二年
瀧ヶ崎 玲子

京都旅行は初めてだったので、少し不安でしたが、何も心配することはなかったと思いました。特に、二日目の班行動はとても楽しかったです。

ガイドさんはとても優しく丁寧に教えてくれ、写真もまめに撮ってくれました。また、私たちの行きたいところや、お店を選んで連れて行ったりしてくれました。そこまで京都を知り尽くしている人にガイドしてもらい、とてもよい



経験をする事ができたと思います。

また、私は日本史やお寺にとっても興味があったので、寺めぐりや京の町並みを見ることが一番の楽しみでした。そして、色々な所をまわっているうちに、私の考えを上回る美しさ・荘厳さに心を打たれ、それを作り上げた先人にも感激しました。昔の人々は、視覚や聴覚が感覚的に優れていたのだな、感じ方が皆違っていたから、洗練された美を表現できたのかな、と思いました。そして京の町並みを

見ていると、日々の苦難から少しでもまぬがれようとするかのような家のつくりの工夫を見ることができました。これこそが日本の家だと思いました。
京都は日本の過去の文化の中心だということはもちろん、日本の美意識の中心だということをあらためて実感しました。
また、京都に行つてみたいと思います。





五期生 石崎教夫

初めまして、第五期卒業生の石崎教夫です。

仕事で少しご縁があつて、暫く南極に行つておりました。「第四次南極地域観測隊」として南極に行つていた期間は、二〇〇一・一一〜二〇〇三・四までです。

私の南極に居る間の仕事は、「装備・フィールドアシスタント」の二役でした。「装備」の仕事は、南極で生活するために必要な物の調達・管理・配布です。「フィールドアシスタント」の仕事は、野外活動をする全ての隊員が、死なない為の準備・サポートです。

皆さん「南極」って聞くと、何を思い浮かべますか？ペンギン？アザラシ？オーロラ？それともタロートとジロー？（これ一番多いで

す…あはは)

いやいや、それでは南極は語れません。そう…南極と言うのは良くも悪くも「雪の国」なのです。

南極の雪は痛いのです。

上から降ってくる雪を見る事は有りません。天候が悪くなると大概風が吹き、その風に乗って降る雪はまるで石礫の様です。車両の窓ガラスなどは細かい傷が付き、一年で交換です。

南極の雪はしつこいです。

一度ブリザードが吹くと、雪は一晚で降り積もり、建物の風下に高さ五〜六m・幅一〇〇mの巨大な壁を作り上げます。数十人が一日がかりで重機を使い、やっと通れる様になつてもまたその晩のブリザードで同じ壁が…。

これが極夜期をはさんで数カ月つづきます。迷惑をかける事の多い雪ですが、なかには雪が降り積もるのを心待ちにしている人もいます。通称「かまくら隊」と呼ばれる人達です。

毎年の恒例行事なのですが、“ドリフト”と呼ばれる雪の山を使つてかまくらを作ります。これは昭和基地の様々なイベントに使用されるのですが、かまくらの内部面

積を客隊ごとに競つているのです。

「自然に出来た雪の山を使用する」と言うルールもあるので、雪が積もれば積もるほど有利になる訳です。

因みに私たちの年は二〇畳ほどの広さでした。

南極は本当に雪だらけです。

南極の代表的な風景と言えば「白い大陸」「冰山」などですが、どれも元をたどれば雪の塊です。これだけ雪に囲まれた生活は、おそらく他では味わえないでしょう。もちろん飲料水や生活用水・暖房に至るまで全ての「水」は雪を溶かして作るのです、恩恵に与つているのは間違い有りませんが…。

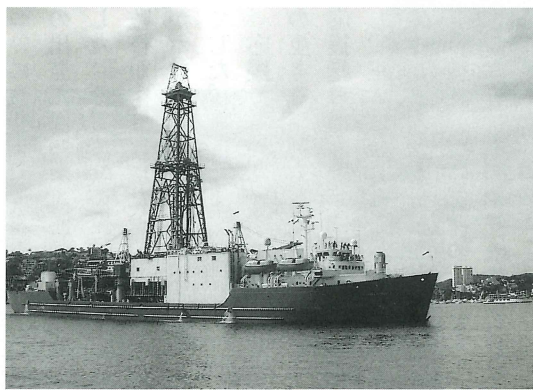
ブリザード上がりの透き通るような晴天。極夜期に夜空を埋め尽くす眩いばかりのオーロラ。地球環境を知る上で貴重なデータを我々に与えてくれる珍しい動物達。目に映るそのどれもが感動的なものばかり。しかし良くも悪くも気まぐれな雪しだい…。

ともかくにも、大自然の驚異に翻弄された一年半でありました。興味を持った方は、一度調べてみてはどうでしょうか？面白いですよ？南極って。



六期生 久光敏夫

私は卒業後、茨城大学にて理学修士を取得、博士課程を九州大学にて修了しました。大学では地球科学分野、地質学と古地磁気学を専攻しました。古地磁気学は堆積物や岩石に記録された数万〜数億年間の地球磁場変動を紐解く学問です。大学時代に多くの調査・分



析技術を学び研究論文を執筆しました。現在は海洋科学技術センターの技術研究員として高知大学海洋コア総合研究センターに派遣勤務しています。

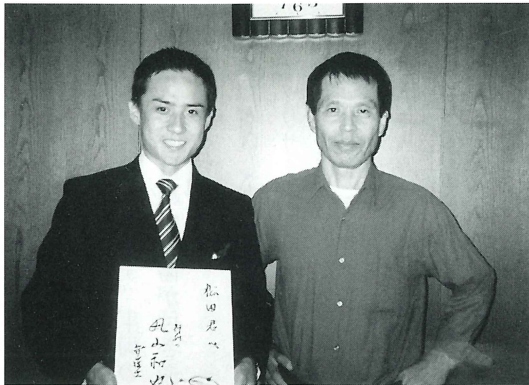
海洋科学技術センターは「しんかい6500」等の潜水艦や海洋調査船を保有する海洋および海洋地質研究機関です。私は船舶を利用した研究調査航海や国際深海掘削計画（本部・米国テキサス&M大学）などに参加しています。私が扱う試料は、南海トラフやコスタリカ沖などのプレート収束域堆積物です。研究内容の多くは国内のみならず米国や欧州の研究者と分担し、総合的な海洋地質研究を行っています。



十期生 松田 浩明

はじめまして、私は常総学院十期生で、現在は千葉県白井市役所に勤務している松田浩明と申します。

この度、先生方のご協力により、今年の三月に白井市で開催される人権講演会の講師に原田校長先生のご紹介で、丸山弁護士をお招きすることになりました。



在学中は応援指導部に所属し、千葉県の白井町（現在は白井市）

から約二時間かけて通学しました。卒業後は法政大学で応援団を続け、教育実習でも常総学院で貴重な経

験をさせていただきました。

今年応援一筋の私にとって最高の夏になりました。私が高校時代に春のセンバツ決勝で敗れた智弁和歌山との試合が日曜の予定だったので、前日の夜行バスで同行させていただいたのですが、京都まで着くと雨で順延となっていました。無念でしたが後輩たちに気持ちを託し、一人東京へと引き返しました。次の日からは一生懸命働くことが母校の勝利につながると信じて精一杯仕事に励みました。職場の方々も応援してくれるようになり感激で胸一杯でした。



ついに決勝まで進み再び甲子園への出発が決まった時は夢のようでした。そして初の全国制覇、木内監督が宙に舞った瞬間、自然と涙がポロポロでてきて止まりませんでした。

応援で培った経験は、今でも私の生きる原動力となっております。応援指導部も今年で二十期が卒部になり、正式にOB会を結成することになりました。母校発展のため、会員相互の親睦を深め、卒業生としての誇りを持って後輩たちを支えていこうと思います。

十期生 久保田 美幸

定期テストは年十回（！）放課後、春、夏、冬休みはゼミと補習夜も遅くまで図書館で勉強。

常総学院での三年間は、勉強、勉強の日々でした。睡眠時間を削り、勉強以外のことはほとんどできませんでした。しかし、なぜかいやだ、つらい、と感じたことはありませんでした。勉強内容が高度であっても、分かるまで指導していただき、授業についていけたからです。

昨年一月、学習塾を開きました。常総で過ごした三年間は今の

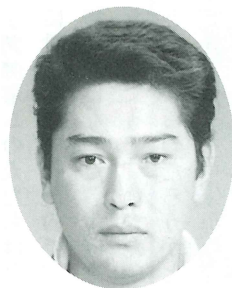


私の大きな支えです。私が常総学院で受けたような教育を自分の生徒たちにできるようにするのが、いまままだ先だと思えますが、いつも目標にがんばっています。

今年の夏、甲子園のアルプスタンドで校歌を歌うことができませんでした。スポーツだけでなくあらゆる面で、常総学院の発展にはめざましいものがあります。甲子園での生徒たちのように、私達同窓生も力を出し合ってさらなる発展に寄与していきたいと考えています。

築きあげられた伝統

一期生 川村 亮二



私が常総学院野球部に入部して早二十年がたち、卒業して二年後には、三期生が夏の甲子園で準優勝。それからというものの「木内常総」は、甲子園の常連校となった。

今年、木内監督が勇退されるという事で急遽、野球部OB会「常友会」が七月に結成された。そして八月には甲子園での優勝。我々としては慌ただしい日々が続いたが、歴代のOB達と接したり、甲子園へ応援に行ったりしているうちに、今までにない母校愛や、野球部関係者諸氏への感謝の気持ちが改めて心に沸いてきた。それに気づかせてくれたのが、全国優勝を成し遂げた部員達である。一言「ありがとう、優勝おめでとう。」と伝えたい。

最後に、木内監督へ。「感動を有り難うございました。長い間お

疲れ様でした。」 持丸新監督へ、「更なる伝統づくりをよろしくお願ひ致します。」

スタートは体育館器具倉庫

パワーリフティング部OB会長

二期生 瀬尾 桂一



私が常総学院高校を卒業し、早いもので十八年が過ぎてしまいました。現在は地元の谷田部で家業のクリーニング店を親子二代で経営しています。また、趣味と実益を兼ね、会員数約六〇名のスポーツトレーニングジム（パワーハウスつくば）のオーナーも務めています。

昭和五十九年、開校二年目の常総学院高校に入学し、次の年に、顧問の武井先生と共に現在のパワーリフティング部を創部されました。当時は部員数三名、体育館二階の器具倉庫の隅がスタートラインでした。卒業後、社会人となりスポーツジムを経営するかたわら、

週に一度は学校に出向き技術指導を中心にコーチを務めています。また、先輩たちの手助けになればと、十年前にOB会を発足させ、金銭面等での援助も行っています。

創部から二十年、現在までに常総学院高校パワーリフティング部は、高校の全国大会で三度の全国制覇、'92と'93に二年連続で世界ジュニアパワーリフティング選手権大会に出場、近年では'02・'03と世界サージュニアパワーリフティング選手権大会に出場するなど、世界で活躍する部に成長しています。



このような輝かしい成績を収めてくれたのも、部員たちの努力はもとより学校や同窓会各位の理解や協力、また援助の賜物と感謝しております。私も常総学院の卒業生の一人として、これからも出来る限りの支援をしていきたいと思えます。最後になりましたが、今後の同窓会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念致します。

五期生 前川 信史

(常総学院 教諭)

生徒と同様ファームに滞在することになっていた。当然ながら英語しか通じないのではあるが、片言の英語でもなんとかなるだろうとも思っていたので、コミュニケーションをとることは何とかなるだろうと思っていた。習慣も違うまったく面識のない家にお世話になることのほうが心配であった。

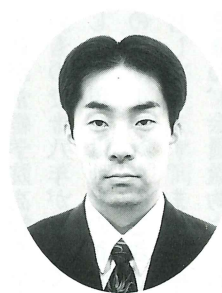
実際には、ファームの人たちはとても気さくで暖かく迎えてくれたので、すんなり溶け込めた。ただ、コミュニケーションという点では、話の内容は理解できても言おうと思うことがなかなか英語で出てこなかったもので、とても悔しい思いをした。



私の泊まったファームでは、広大な土地に競走馬を飼育していた。トレーニングの様子を見ることが出来、貴重な体験が出来た。また、自然の大きさ、きれいな空気、遠大な夜空にふれ、ニュージーランドにきているということを実感した。ファームの人たちはとても親切に対応してくれたので、離れ難い気持ちになった。生徒たちも同じだったようで、いったいどんなことが起こるのだろうかと不安な顔で各ファームへ分かれていったのだが、ファームの人とお別れするときには感極まって泣いてしまう生徒たちもたくさんいた。さらに、

この研修旅行での経験から、もっと英語を勉強して滑らかに話せるようになりたいとか、日本だけでなく世界に出て働きたいとか、気持ちを新たにしたいようである。ニュージーランドから戻ってきて、生徒たちは一回り大きくなったように感じられる。良い経験になったようだ。

六期生 岡田 慎一郎



私は今年の四月から、ホームヘルパー養成講座の講師と、リハビリの専門資格である理学療法士の養成校の学生(夜間部)という二足のわらじをはく社会人学生をしています。これまで約十年間、身体障害者の施設職員をしてきました。その中でリハビリの重要性を認識することが多く、学ぶ必要性を感じました。もう一つの理由として私は福祉専門学校を中退しているのもう一度学び直したいという気持ちが強くなったことがき

っかけとなりました。講師の仕事は、教科書通りでなく介護現場で役に立つ実践的な内容を講義するように心がけています。学生としては、予想よりもずっと勉強が難しく、テスト前には冷や汗をかきっぱなしです。昼間先生としてえらそうなことを言っていたと思うと、夕方は急にあたふたする学生となる。そんなことに苦笑しつつも、三十路にして再び学び直すことが出来る幸せに感謝しつつ、そして悩みもつつ日々過ごしていきます。



常総歴史館

「常友祭・同窓会企画」

六期生 山口 大武

同窓会初の試みとなる常友祭への出展、タイトルは「常総歴史館」。「同窓会ではどのような活動をしているのか?」「何を目的としているのか?」等の声が数多く寄せられている中、同窓会の存在を内外の方々により広く知って頂きたいとの思いからこのような企画として結実しました。

今回の企画では、一期生から一八期生までの卒業アルバムの紹介、そして今年夏の第八五回全国高等学校野球選手権記念大会の深紅の大優勝旗を一般公開しました。

開校以来今年で二一期生を迎え、卒業生も一八期・約一三、〇〇〇人を超えるに至りました。卒業アルバムの紹介では、開校当時のあの懐かしい風景から現在に至るまでの変化を目にすることができました。OB・OGは青春の一ページを繕きながらあの頃の思い出を語り、先生方は卒業生一人一人の顔を思い浮かべながら教え子の成長を喜び、また在校生は開校当時の、自分たちを取り巻く環境

の変化、学校の発展に目を見張っていました。

大優勝旗の一般公開では、あの夏の感動が会場全体にまぎまぎとよみがえり、それを見た誰もが野球部の健闘を讃え、胸を熱くし、誇りに思ったことでしょう。

今回の企画で、それぞれが「常総学院」という舞台に立っていた、また、立っているということを改めて感じることができたのではないかと思います。

公開日は一月九日の一日限りではありましたが、一般二一九名、在校生八四名と多数ご来場頂き、おかげさまで盛況のうちに終えることができました。陰で支えて下さった教職員の皆様、生徒会の皆さんに心より感謝申し上げます。同窓会会員の皆さんにおかれましては、今後とも同窓会活動へのご支援ご協力の程心よりお願い申し上げます。来年の常友祭でも企画出展の予定です。会員各位のご来場を心よりお待ちしております。同窓会事務局員一同、母校の発展のため同窓会活動の更なる展開を期してがんばってまいります。



常総学院中学校 第一期生同窓会のお知らせ

場 所：常総学院中学校
日 時：平成16年2月22日(日) 15:00~17:00
会 費：3,000円(当日受付にて回収)

常総学院「成人式」のお祝いを
中・高共に過ごした仲間と祝いましょう。

■平成14年度 常総学院高等学校同窓会決算書■

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

●収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1.会費, 2.雑収入, 3.前年度繰越金, and 合計.

●支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異, 備考. Rows include 1.消耗品費, 2.通信運搬費, 3.印刷製本費, 4.会議費, 5.旅費交通費, 6.甲子園出場経費, 7.設備費, 8.雑費, 9.次年度繰越金, and 合計.

上記の決算書について諸帳簿関係証書を監査した結果、適正かつ正確であることを証明いたします。

平成15年4月10日

会計監査 関口義久 久保田美幸

■平成15年度 常総学院高等学校同窓会予算書(案)■

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで

●収入の部 (単位:円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差異, 備考. Rows include 1.会費, 2.雑収入, 3.前年度繰越金, and 合計.

●支出の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差異, 備考. Rows include 1.消耗品費, 2.通信運搬費, 3.印刷製本費, 4.会議費, 5.旅費交通費, 6.甲子園出場補助費, 7.部活動補助費, 8.記念品費, 9.雑費, 10.次年度繰越金, and 合計.

平成15年度予算について

平成15年度予算は、平成15年度の事業計画と平成14年度の収支実績を勘案して編成した。

- 1 収入の部
入会金・同窓会費、予算どおり収受した。
2 支出の部
同窓会会報発行・郵送・全国高校野球出場補助、卒業生・新入生への記念品等により支出の増加となった。
第84回選抜高校野球出場に際し会員の皆様よりの寄付のご協力を賜り有難うございました。

平成14年度決算について

- 1 収入の部
入会金・同窓会費、予算どおり収受した。
2 支出の部
同窓会会報発行・郵送・全国高校野球出場補助、卒業生・新入生への記念品等により支出の増加となった。
第84回選抜高校野球出場に際し会員の皆様よりの寄付のご協力を賜り有難うございました。

常総学院高等学校同窓会会務分担表. Table with 4 columns: 担当, 本部役員, 学校, 主な業務. Rows include 総務, 経理, 会報, 名簿, 事務局, and 監査.

読者の皆様へ支えられ、今回で第四号の発行となりました。同窓会の活動もまだまだ緒についている。私たちが母校・常総学院もまだ二十歳を過ぎたばかり、まだまだ若い学校です。しかしながらこの二十年の間には、数々のドラマが生まれ、想い出が刻まれ、伝統が築かれてきました。たった二十年ではあります。私たちが一人一人が「この時」を生きてきたのです。年月の長さではなく、何を成し得たか、という価値を育んできたからこそ現在のような母校の発展を目の当たりにすることができるとは、卒業生には母校の現状、在校生の活躍を、在校生には巣立って行った先輩方のいろいろな分野での活躍をお伝えするための機関誌として、また原点を同じくする同窓会会員同士をつなぐパイプとしての役割を担っていくことができれば幸いです。そして、同窓会の存在が常総学院全体として良き依怙託となれるよう事務局員一同ががんばってまいります。今後もご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会総務 山口大次 編集委員一同

同窓会事務局より

常総学院高等学校同窓会総会開催のお知らせ

日時 平成16年4月18日(日)
場所 常総学院高等学校 午前10時から
会員皆様の多数の出席をお待ちしております。

悪質な電話(勧誘)にご注意

同窓会あるいは同窓会事務局と名乗って、電話などで強引に勧誘する事件が発生しています。不審な勧誘を受けた場合には、即答せず同窓会事務局までお問い合わせください。

情報をお寄せください。

会員皆様より情報を募集いたします。特に、同期会、クラス会開催等、卒業生の活躍に関する情報をお待ちしています。 ☎029-842-8771

編集後記